

いこいのみぎわ 天路歷程 ジョン・バニヤン

第12話

2022年2月6日～2月12日 各家庭でのディボーション用テキスト

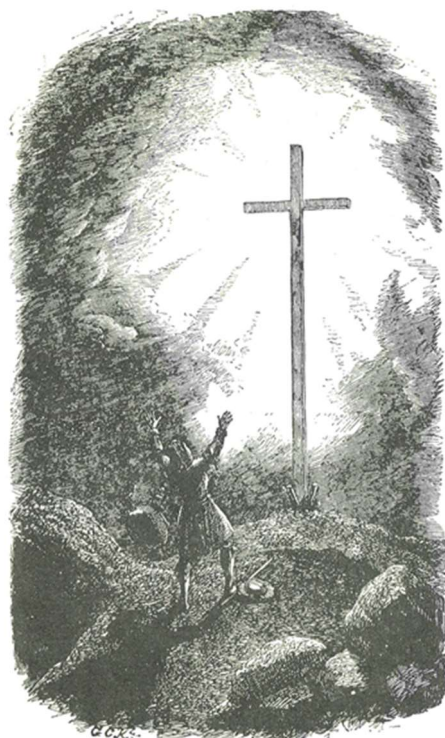
さて、私は夢で見ていると、基督者が行くべき道は両側が垣で囲まれ、その垣は救いの垣と呼ばれていた。【イザ 26:1】それで重荷を負うた基督者はこの道を駆けて行ったが、背中の中荷のため非常な困難がないわけではなかった。

このように駆けて行くと、やや上り坂の所に来たが、そこには十字架が立っており、少し下の方には、くぼ地に一つの墓があった。私が夢で見ていると、基督者がちょうど十字架の所へやって来たときに、彼の重荷は肩からほどけ、背から落ち、転がりだしてとまらず、ついに墓の口まで来ると、その中に落ちこんでもはや見えなくなった。

その時基督者は喜んで心も軽く、楽しげに言った、主はその悲しみによって私に休息を与え、その死によって生命を与えられた。

それから彼は暫く立ち止まり、眺めて驚いた。十字架を見たために、このように重荷から楽になろうとは実に驚くべきことであつたからである。それで彼は何度も見ているうちに、ついに頭の中の泉から涙が湧き出て頬を伝わった。【ゼカ 12:10】さて、彼が眺めて泣きながら立っていると、見よ、三人の輝ける者が彼の所へやって来て、「やすかれ」とあいさつした。第一の者は彼に言った。「あなたの罪はゆるされた」。【マコ 2:5】第二の者は彼のぼろ着物を脱がせて、着換えの衣を着せた。【ゼカ 3:4】また第三の者は彼の額に印をつけ、【エペ 1:13】封印のある巻物を与えて、走りながらそれを読み、天の門でそれを渡すように命じた。そこで彼らは立ち去った。その時基督者は三たび小躍りして喜び、次のように歌いながら進んで行った。

ここまで罪の重荷を負って来た。
わが悲しみを軽くするすべもなく、
ここへ来た、これは何という所だろう。
私の至福はここに始まるのか。
私の重荷はここで背から落ちるのか。
私をしばった紐はここで切れるのか。
尊き十字架よ！ 尊き墓よ！ むしろ尊きは
私のために恥を受けられたお方こそ！



基督者は十字架のところで重荷を失う



基督者巻物を受ける

その時夢で見ていると、彼はこのように進んで行ってついにくぼ地に来たが、その道から少し離れた所に三人の男がかかるとに足かせをつけられて、ぐっすり眠っているのを見た。一人の名は間拔者、次は無精者、第三は厚顔者であった。

基督者は彼らがこんなざまで寝ているのを見て、ひょっとして目を覚ませたらと思って彼らの所へ行って叫んだ、お前さん方は帆柱の天辺で眠っている人と同じですぞ、【箴 23:34】 死の海が、底知れぬ深淵が下にあるんだから。目を覚まして立ち去りなさい。お望みなら、私が手伝って鉄の足かせをはずしてあげよう。さらに言った、ほえたけるししのように歩き回っている者がやって来たら、【I ペテ 5:8】 お前さん方はきっとその牙にかかって餌食となるでしょう。

すると彼らは彼を眺めて、こんなふうに答え始めた。間拔者は、危険なんか少しも見えないよ、と言い、無精者は、もう少し眠らなくちゃ、と言い、厚顔者は、自分のことは自分で始末するよ、それ以外に返事のしようがあるものか、と言った。こうして彼らは再び横になって眠ったので、基督者は自分の道を進んで行った。

しかし彼は心配だった。彼らを起こし、忠告し、手伝って鉄の足かせをはずしてあげようとも言って、進んで助けを申し出たのに、あの危険にいる人たちが親切をこのように顧みなかったことを考えたからである。そのことを案じていたとき、彼は二人の男が狭い道の左手の垣越しに転がり込んでくるのを見た。二人は急ぎ足で彼の方へ来た。一人の名は虚礼者で、今一人の名は偽善者であった。先にも言ったように、二人は彼に近づいて来て、次のように話を始めた。

基督者 皆さんはどちらからお出でになりました。どちらへお出かけですか。

虚礼者と偽善者 私たちは虚栄の国に生まれました者で、シオンの山へ賛美に出かけるところです。

基督者 なぜあなた方はこの道の入口に立っている門から入って来られなかったのですか。「門からではなく、ほかの所からのりこえて来る者は、盗人であり、強盗である」【ヨハ 10:1】と書いてあるのをご存じないのですか。

虚礼者と偽善者は言った、入るのに門の方へ行くのは、私たちの国の者は皆遠回りすぎると考えています。それで私たちのしたように、近道をして垣を乗り越えるのが皆のいつものやり口です。

基督者 しかし、そんなことをして、私たちが行こうとしている都の主が明らかにせられたみ心に背くことは、主に対する罪と考えられないでしょうか。

虚礼者と偽善者 それについては頭をお悩ましになるには及びません。私たちのやることは習慣からするので、もし必要であれば、千年以上もそれで通ってきたと証しする証拠を出すことができるのです。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。